

高等学校音楽教育研究会の コンサート2018が遺愛講堂で開催！！

2月3日（土）15時より遺愛学院講堂で、高等学校音楽教育研究会道南地区会員による研究演奏会が開催されました。今回のテーマが『教科書から飛び出した高校音楽の先生たち』で、教科書に出てくる有名な曲を、高校の音楽の先生方が生演奏するというコンサートでした。

2部構成で、1部はバッハの『トッカータとフーガニ短調 BWV565』をオルガン独奏、ヘンデルの『オペラ・セルセよりく樹木の蔭でオンブラ・マイ・フ』をソプラノ・トランペット・オルガンのアンサンブルで、ジョルダナーニの『カーロ・ミーオ・ベン』をソプラノ独唱で、ベートーヴェンの『悲愴』をピアノ独奏で、『ソーラン節』を三味線と歌で、大中寅二の『ヤシの実』をトロンボーン独奏で、演奏しました。どれも良く聴いたことのある曲で、音楽に疎い私にとっても、心地よい音楽会になりました。

第2部は、山岸久生編曲の『4つの日本のメロディ』を参加者全員によるリコーダーで、最後は木下牧子『光と風をつれてよりくあいたくて』、デュボアの『グロリア』が、全員合唱で奏でられました。いつもは生徒を指導する先生方が真剣な表情で演奏する姿には、とても魅きつけられるものがあり、ぜひ多くの生徒たちに、その姿を見てもらいたいと感じました。

2018年2月6日

